

警察署協議会議事録

協議会名	令和5年第3回宮城県佐沼警察署協議会
開催日時	令和5年11月29日（水） 午後4時00分から 午後5時00分まで
開催場所	宮城県佐沼警察署会議室
出席者等	<p>1 協議会委員（6名）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出席委員～佐竹委員、太田委員、伊藤委員、千葉委員、進藤委員 佐々木委員 ・ 欠席委員～なし <p>2 警察署側（9名）</p> <p>署長、副署長、警務課長、生活安全課長、地域課長、刑事課長、交通課長、警備課課長代理、警務係長</p>
議事概要	別紙記載のとおり
備考	

備考 所定の欄に記載することができないときは、別紙に記載の上、添付すること。

議事概要	<p>【役員選任】 委員全員による互選の結果、 会長 佐竹 孝行 委員 副会長 太田 志穂 委員 が選任された。</p> <p>【議事】</p> <p>1 管内の治安情勢について【署長】</p> <p>(1) 刑法犯</p> <p>ア 認知状況等（令和5年10月末現在） 全刑法犯の認知件数は215件で前年同期比52件の増加となっており、検挙件数は88件で2件の増加、検挙率は40.9パーセントで11.9ポイントの減少となっている。 そのうち重要犯罪の認知件数は2件で前年同期比増減なし、検挙件数は3件で2件の増加、検挙率は150パーセントで100ポイントの増加となっている。 また重要窃盗犯は18件であり、前年同期比で1件の減少となっており、検挙件数は1件で5件の減少、検挙率は5.9パーセントで25.7ポイントの減少となっている。</p> <p>イ 特徴点 刑法犯のうち窃盗犯が約60パーセントを占め、次いで器物損壊が30件で約14パーセントを占める。 窃盗犯の手口別では、侵入盗17件、非侵入盗104件、乗り物盗9件で、重要窃盗が窃盗全体の約13パーセントを占める。</p> <p>ウ 本年発生の重要犯罪 当署では本年、殺人未遂と強盗未遂が発生している。</p> <p>(2) 交通事故発生状況等</p> <p>ア 発生状況（令和5年10月末現在） 人身事故の発生件数は81件で前年同期比6件の増加、死者数は0人、負傷者数は93人となっている。 物損事故の発生件数は870件で前年同期比57件の増加となっている。</p> <p>イ 特徴点 「出会い頭」の事故が34.2パーセントで県平均を大きく上回っている。</p>
------	---

議事概要

「追突」の事故が42.1パーセントで県平均を上回っている。

ウ 重大事故

令和5年7月19日、登米市南方町地内の直線道路で車両が通過時に歩行者と接触した事故

(3) 人身安全関連事案の発生状況等

ア 発生状況（令和5年10月末現在）【暫定値】

子供女性を対象とした前兆事案が22件、DV事案が31件、児童虐待事案（通告件数）が22件、高齢者虐待事案が13件発生している。

イ 特徴点

DV事案と児童虐待事案が昨年と比べて増加し、高齢者虐待事案は減少している。

児童虐待事案は、面前DVなどの心理的虐待が多数を占めており、DV事案の増加に伴い増加している。

(4) 特殊詐欺の現状

ア 県内の発生状況（令和5年10月末現在）【暫定値】

県内の発生件数は279件で前年同期比4件の減少となっているが、被害額は約6億6,509万円と約2億1,078万円の増加となっている。

イ 当署の発生状況

当署の発生件数は5件で前年同期比3件の増加となっており、被害額は約2,276万円と約1,556万円の増加となっている。

被害状況としては、キャッシュカード詐欺盗、還付金詐欺、架空料金請求詐欺の手口が発生している。

【意見・要望】

－委員－

特殊詐欺の被害者には50代の被害者もあり、宝くじの当選メールなど日常の中に被害の可能性が潜んでいて危険な状況にあると感じている。

抑止対策はどこが担当しているのか。

－署長－

高齢者の被害は多いが、40代、50代の被害も発生しているので、今後も年代に関係なく注意を喚起していく方針である。

警察では、抑止活動やデータの収集等を生活安全課、犯人の逮捕といった検挙活動を刑事課が担当して、検挙と抑止の両輪

議事概要

で対策を推進している。

—委員—

交通事故について駐在所の広報紙などを利用した広報活動などを拝見したが、直接面接するような方法での広報活動も有効であると感じている。

—署長—

御意見を参考として交通事故防止活動を推進していく。

—委員—

空き家世帯が増えているため侵入盗などの被害が懸念される中で、駐在所等で見回りをしてもらっているのが抑止力につながっていると感じているので継続して行ってほしい。

—署長—

御意見を参考として今後も防犯活動を推進していく。

2 在留外国人の安全確保に向けた対策について【刑事課長】

(1) 在留外国人向け動画視聴

(2) 在留外国人の動向

在留外国人数は年々増加傾向で、今後も続く見込みとなっており、全国で約300万人、当県で約2万4,000人となっている。

外国人名義の携帯電話や銀行口座が特殊詐欺に悪用されるケースもある。

(3) 登米市の外国人居住実態（令和5年9月末）

登米市居住の外国人は、429人で男性166人、女性263人となっている。

(4) 在留外国人の安全確保等に向けた各種警察活動

ア 防犯・交通安全についての広報啓発活動

イ 通訳人を帯同した巡回連絡（当県では不実施）

ウ 外国人雇用企業、日本語学校に対する管理者対策

エ 110番通報訓練の実施

オ 犯罪の取締り

【質問・意見】

—委員—

関東や仙台に行くと普通にコンビニエンスストアなどで外国人が接客をしており、外国人の数が多くなっていることを実感している。

動画を見て、犯罪に手を染める外国人が増えないように、私

議事概要

たちもできることをしていきたいと思った。

－委員－

110番通報訓練の実施とあったが、以前私達も訓練を受けたことがあり、それを外国人に目を向けて実施することは大変素晴らしいことだと感じたので、継続して進めていただきたい。

－署長－

委員の御意見を参考として継続して対策を推進していく。

【次回開催について】

－副署長－

次回警察署協議会については、来年2月頃予定している。

